

第8章 ロードマップ

3D デジタルマップの整備・運用は、現状の創成期である段階から、5G や自動運転、測位システムの高度化などの今後の技術動向を踏まえ、いくつかのフェーズに区切りながら長期的に取り組んでいくことになる。

3D デジタルマップが対象とするエリア、詳細度、更新頻度、官民の役割分担等を軸として考えた場合、ひとつのフェーズから次のフェーズに移行するには、下記のような事象がトリガーとして求められる。

表 8-1 ロードマップの想定ステージと各ステージ間の移行のトリガー例

	ステージ 1 (短期)	ステージ 2 (中期)	ステージ 3 (長期)
実現状態	都が中心となり、行政業務や施策での活用、人流解析やモビリティなどの優先テーマを対象とし、スマート東京の重点地区において先導的な取組みを実施する段階。	都と民間が協働し、幅広いユースケースを対象とし、段階的にエリアを拡充して普及させる段階。3D デジタルマップの更新や仕様のバージョンアップなど、発展的に取り組む。	都と民間が協働し、多様なサービスでの活用により都全域で取組を展開させる段階。3D デジタルマップの利用が定着し、民間整備データの流通、リアルタイムデータ更新が実現。
軸	ステージ 1 からステージ 2 にシフト		ステージ 2 からステージ 3 にシフト
対象エリア	<ul style="list-style-type: none"> ○先進的ユースケースのサービス化実現 <ul style="list-style-type: none"> ・横展開可能なデータ仕様、データ取得方法が定義・確立 ○データ整備の低コスト化の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・3D デジタルマップの整備マニュアルが策定され、整備参加者が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ○データ整備の低コスト化の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・3D デジタルマップの標準作業手法・標準単価の確立（公共測量での位置付け） ・3D デジタルマップの自動整備手法確立 ○都民生活に密着したサービスの実現 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点地区だけでなく、生活圏でのニーズが顕在化 	
詳細度	<ul style="list-style-type: none"> ○センシング技術の高精度化 <ul style="list-style-type: none"> ・広範囲の詳細なデータを効率的に取得できる技術の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ロボティクス等の機械向けニーズの高まり <ul style="list-style-type: none"> ・自動走行、自動判定など、機械が必要とする精度・品質のニーズの顕在化 	
更新頻度	<ul style="list-style-type: none"> ○一括・部分等の更新手法の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・履歴管理可能な方法での一括更新 ・建築物、道路等の個別地物の部分更新手法の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○センサーを活用した自動更新技術の確立 <ul style="list-style-type: none"> ・収集データによるリアルタイム更新 ○民間データ流通のための制度化 <ul style="list-style-type: none"> ・民間建物、民間インフラ施設等のデータを活用した更新手法の確立 	
官民役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な分野の民間プレイヤーの参入 <ul style="list-style-type: none"> ・建設分野以外に IT、センサー開発等の様々な分野のプレイヤーが参加し、技術・ビジネスの競争が活発化する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ビジネスモデルの確立 <ul style="list-style-type: none"> ・整備・運用事業の内容が平準化され、収支が見合う 	

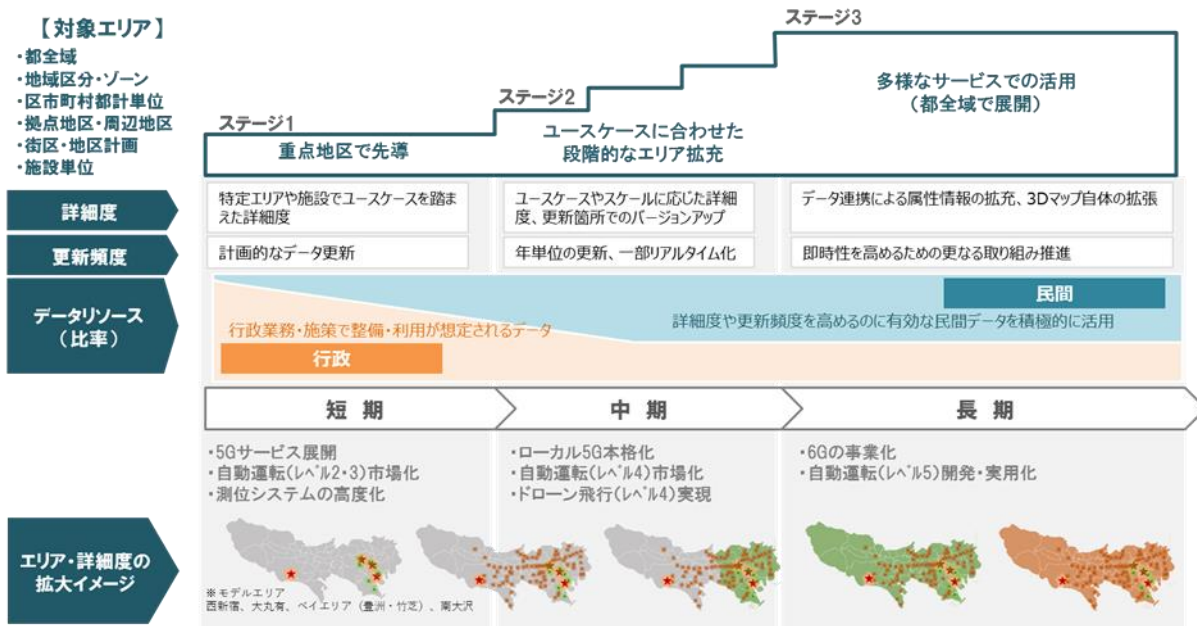


図 8 - 1 3D デジタルマップ整備・運用ロードマップのイメージ